

326
355

時局影響調查第十回
外國為替概觀

全



始



326-355



時局影響調查

第十回

名古屋商業會議所
經濟調查部 編纂

外國爲替概觀

全

名古屋商業會議所發行

所寄贈本





序言

外國貿易と外國爲替とは、最も密接なる關係を有し、其狀恰も鳥の兩翼車の兩輪に於けるが如し。前者の進歩發展を企圖せんと欲せば、必ずや後者に對する機關の敏活及び其整備充實を實現せざるべからざると同時に、後者をして此の如き狀態に達せしめんと欲せば、勢ひ前者の進歩發展なかるべからず。今や我が名古屋に於ける外國貿易は、歐洲大戰の好影響を蒙りて、俄然として殷盛の狀を呈するに至り、之を戦前と比較せんか、其進展の急激にして顯著なる、實に吾人の意表外に出づるものあり。茲に於てか本市に於ける外國爲替の賣買取組も亦叙上の趨勢を蒙り、顯著なる増進あるに至れるは、蓋し理の賭易さ所なり。然りと雖も由來本市に於ける外國爲替機關は、尙未だ整備發達するの域に到達せずして、彼の専門の爲替銀行の創起は勿論、直接取組に至つても亦振興するに至らず、大勢上依然として戦前の舊套を脱せざるが如し。之れ豈に時局の好影響を蒙り、前途益々發達の潮流に棹しつゝある本市の默過するを許すべきや奈何。蓋し外國爲

替機關の整否如何は、其影響する所豈に唯に外國貿易上のみと言はんや、又金融界及び産業上の重大問題たらざるを得ず。本編は則ち叙上當面の大問題に對する解決を與ふる一助たらしめんが爲の調査攻究に係れるを以て、努めて繁を捨て簡に就き、單に本市若くは本市に影響すべき諸現象に局限せるは勿論、彼の爲替相場或は其他附隨的諸事項は、從來に於ける調査に於て既に其一端を公にし、或は其然らざるものと雖も、直接重大なる意義及び關係を有せざるを以て、凡て是等を除外せり。而して此種の計劃は本市としては、未だ曾て之を耳にせざるが如くなるのみならず、短日間の調査攻究に過ぎざるを以て勢ひ杜撰、尙幾多攻究の餘地を存すと雖も、冀くは之に依りて本市に於ける外國爲替機關の改善は、本市外國貿易上は勿論、金融界及び産業界の喫緊問題にして、戦後經營上に於ても亦忽諸に附す能はざるを痛感せしめ、依りて以て之が實現の機運を醸成せしむるを得んか、本編の目的は則ち足る。敢て本市商工業者及び識者の高教を促さんとする所以なり。

大正七年六月

編 者 識

時局影響 外國爲替概觀目次

第一章 總 論……………一

第二章 最近數年に於ける名古屋市外國貿易……………三

 第一節 概 說……………三

 第二節 國別貿易……………四

 第一項 輸 出……………四

 第二項 輸 入……………六

 第三節 品種別貿易……………八

 第一項 輸 出……………八

 第二項 輸 入……………一一

第三章 外國爲替取組の趨勢……………一三

 第一節 概 說……………一三

 第二節 國別爲替手形……………一五

 第一項 輸 出爲 替……………一五

第二項 輸入爲替……………一七

第三節 品種別爲替手形……………一八

第一項 輸出爲替……………一八

第二項 輸入爲替……………二六

第四章 外國貿易上に於ける外國爲替の地位……………二九

第一節 概観……………二九

第二節 細観……………三一

第一項 輸出爲替……………三一

第二項 輸入爲替……………三六

第五章 外國爲替賣買取組の實際……………三九

第一節 賣買取組の狀況……………三九

第二節 當業者の實例……………四四

第六章 外國爲替機關改善の急務……………四九

第一節 直接爲替取組の開始……………四九

第二節 外國爲替機關改善の利益……………五一

第一項 總説……………五一

第二項 取組上それ自體より生ずる利益……………五二

第三項 外國貿易の發展……………五二

第四項 金融界の擴張……………六三

第五項 産業の革新……………六七

第七章 結論……………七一

時局影響調査 外國爲替概観

第一章 總論

外國爲替の生ずる原因を尋ねるに、素より種々ありと雖も、之を大別するときは、外國貿易、外債其他の金融上、及び雜種、即ち國際商業、公私の財政、政治及び社會上の四大現象に分類するを得べし。然れども後三者に原因する外國爲替の流出入は、概観上常時間斷なく起るものにあらずして、主として外國貿易の狀況如何に左右さるゝものと觀るを得べし。況んや本編の主眼とする外國爲替に關する調査は、我が名古屋に於ける狀況に限定せるに於てをや。故を以て公私財政、及び社會上其他の現象に因りて生ずる外國爲替は間々之れ無きにあらずと雖も、暫く是等を除外し、主として外國貿易上に起因する外國爲替のみに就き、既往の狀態及び其發達の趨勢を調査攻究し、以て將來に於ける發展策を樹立せんと欲す。

夫れ斯の如く我が名古屋に於ける外國爲替の發達は、主として外國貿易の發達に隨伴せるを以て、之を十年前に遡りて、尙ほ未だ本市外國貿易の發達せざりし當時の狀況を顧みるに、直接外國爲替の徴々として稱するに足るの數額を出さず、殆んど之が發生なかりしは、蓋し自然の數にして、更に降りて

現歐洲戰亂前に至りては、稍々増加するに至りしも、素より其の數額大ならず、其の發達するに至りしは、現戰亂勃發後の大正四年以降にして、特に急激なる増加を示せしは、實に昨大正六年以降の現象なりとす。斯の如く現戰亂勃發前に於て本市に於ける外國爲替の發達せざりし所以のものは、蓋し其原因種々あり。上記外國貿易の今日に於けるが如き發展なかりしも、正に其一原因なりと雖も、更に本市に於ける外國貿易が主として間接取引に依り、直接取引の發達せざるは實に其一大主因たるを失はず。随つて外國爲替取扱銀行は其の當時に於ては存在せず、之れが事務開始を見るに至りしは、僅に十年前のことと屬せり。而も是等外國爲替事務を取扱ふ本市に於ける諸銀行は、直接海外の取引先を有せず、専ら横濱、神戸、或は大阪等に於ける正金銀行の本支店、臺灣銀行支店、及び其他を通じて間接に之を取扱ふに過ぎず。此の結果として本市に於ける外國爲替の取組は敏活を缺き、營業者の蒙る不便不利は實に尠少なからざるものあり。開戦後に於ける本市外國貿易は急激なる發展をなせりと雖も、爲替取組高は遙に其以下にある所以のものは、其因由する所素より他にも之れあるべしと雖も、主として茲にあるを思はざるべからず。之れ豈に戰時中は勿論、戦後一層其發展を企圖せざるべからざる本市外國貿易上等閑に附して可ならんや。蓋し外國貿易の旺盛を企圖せんと欲せば、必ずや其と唇齒輔車の關係ある海外直接航路の充實と共に、外國爲替手形の賣買取組の敏活を企圖し、其機關の改善を實現せざるべからざるは、素と之れ多言を要せざるを以てなり。

第二章 最近數年に於ける名古屋市外國貿易

第一節 概説

本市に於ける外國爲替の發達狀況如何を知らんと欲せば、先づ以て其對象とする外國貿易の發展を顧る所なかるべからず。今試に最近數年以前に遡りて之を見るに、戦前の明治四十五年—大正元年に於ては輸出價額參百〇參萬四千七百參拾參圓、輸入價額五拾六萬六千七百〇五圓、輸出入合計價額僅に參百六拾萬千四百參拾八圓に過ぎざりしが、現戰亂は大體に於て本市商工業に對し急激なる好影響を齎し、開戦後の最近昨大正六年に至りては、輸出價額千六百〇六萬貳千五百五拾七圓、輸入價額六百拾壹萬九千四百六拾圓、輸出入合計價額實に貳千貳百拾八萬貳千〇拾七圓に達する急激なる増進を示し、之を前記の大正元年の數額に比較せば、實に六倍強の増加を示せり。更に明治四十五年—大正元年以降に於ける増進率を、同年を基準とし連年的に比較せば實に左の如し。

年次	輸出		輸入		輸出入合計	
	價額	増加率	價額	増加率	價額	増加率
明治四十五年—大正元年	1,012,733	100.0	56,704	100.0	1,069,437	100.0
大正二年	5,011,101	111.1	3,741,600	65.9	7,752,701	110.5
大正三年	5,847,331	199.3	3,962,245	70.1	9,809,576	110.5

第二章 最近數年に於ける名古屋市外國貿易

第二章 最近數年に於ける名古屋市外國貿易

四

年	輸出	輸入	仕出
大正四年	六、四九、六四	二〇、九	三、七六、一一
大正五年	一〇、三〇、六三	三、六	六、五、七
大正六年	一六、〇六、五七	五、五	一〇、〇七、六六
大正七年(四月迄)	六、〇七、七六	七、三	三、三、二七
合計	五〇、〇七、二七	二〇、八、〇	二六、〇

〔備考〕 大正七年の増加率は明治四十五年—大正元年同期に對するものなり。

即ち開戦後に於ける各年の増加率は、戦前に比し輸入に於て一昨大正五年まで漸次減少せしを除ひては、他は輸出入とも急激なる増進を示し、其合計額に於て最近兩年は、殆んど幾何級數を以て、各前年に對し倍加するに至れり。

第二節 國別貿易

第一項 輸出

國名	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	五年間總計
支那	三〇八、三三五	五五、九七	二、六六、二五	三、〇六、七一	六、一〇、三三	二、一〇、四九
關東州	八三、九二	一、〇八、二四	七三、四八一	六、八、一一	四、四、二六	一、九〇、〇五

本市に於ける外國貿易の概勢は實に叙上の如し。然らば則ち其相手國即ち輸出(仕出)國及び輸入(仕入)國は如何と云ふに、開戦後に至り著しく其範圍を擴大し、之を戦前に比すれば實に刮目に値するものあり。先づ輸出國を一瞥するに左の如し。

香港	一、六九二	一、四四六	二、九六一	三、一四一	三、八、六七	一三、九、九六
英領印度	一、五、八八	一、九、八五	二、七、一一	一、三、九、七	二、三、三、八一	七、六、八、六
同海峽殖民地	七〇	七、七五	五、七、二	五、五、八	五、八、六〇	二三、六、七
佛領印度	……	……	五、〇、七	三	……	……
佛領印度	……	……	四、六、三	四、九、六	四、六、三	一三、〇、九一
暹羅	……	……	七、一、七	三、〇、〇	二、九、一	四、三、八
露領亞細亞	……	……	五、九、四	三	一〇、一、六	……
北米合衆國	一、〇、四、七、七六	一、九、四、六、四六	二、一、九、八、八五	三、四、四、一、六三	四、七、九、三、三	一、七、〇、五、四一
加奈陀	七、八、三〇	二、七、三、三	四、九、四、〇	三、〇、九、三	四、三、三、四〇	九、九、三、三
濠太刺利	……	……	五、五、五	八	三、〇、九、三	九、九、三、三
英吉利	……	……	……	……	二、二、八、八	一三、〇、四、六
佛蘭西	……	……	……	……	三、三、六、三	五、二、〇、四、二
其他諸國	……	……	……	……	三、三、六、三	……
合計	三、〇、四、七、七六	四、〇、三、三、四一	五、八、七、三、三	六、三、九、一、二六	一〇、三、〇、三、三	六、〇、七、八、七六

即ち戦前に於ける本市の輸出貿易は、北米合衆國、支那、關東州、英領印度、加奈陀、海峽植民地、香港等を主とし、其他蘭領印度、暹羅、濠洲等へ少許の輸出ありしに止まりしも、開戦後に於ては管に叙上諸國の外、更に露領亞細亞、英吉利、佛蘭西、佛領印度等を加ふるに至りしのみならず、戦前少許の輸出額に止りし濠洲、其他諸國への數額を増加せしは勿論、叙上諸國以外南米及び南阿等への輸出額を

も著しく増進せしむるに至れり。斯くして、戦前に於て輸出額の最大なりしは、北米合衆國を第一とし、之に亞ぎて關東州、支那、加奈陀等相順次せし状態をして、開戦後最近に至つては之を一變して支那を第一位に昇進せしめて、北米合衆國次位に下り、以下英領印度、英吉利、關東州、蘭領印度、香港、海峽植民地、濠洲、加奈陀等の順位を示し、戦前殆んど其存在を認められざりし濠洲貿易は、香港に亞ひて第八位を占むるに至れり、以て開戦に因りて招致したる本市輸出貿易上の變遷を知るに足らん。

第二項 輸 入

次に輸入國の状況を見るに、之れ亦開戦後著しき變動を呈するに至れり、先づ左表を一瞥せよ。

國 名	明治三十五年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
支 那	三六、九三	五八、三三	一、四八、五元	二、四二、三元	一、三六、九七	一、三三、五元	五〇、九二
關 東 州	二〇、五六一	一、三三、六一	一、七三、三三	五三、二四	一、三九、〇七	三、六二、八五	一、六三、九元
香 港	……	……	四、四一	二、二七	一、〇五	八、一四	三〇、七〇
英 領 印 度	一〇	八六、〇元	三〇、二四	三〇、五元	三、六〇	六、〇一	八五、七八
蘭 領 印 度	……	二七、六六	一〇、三〇	一、八九二	五〇六	一、四、九元	……
佛 領 印 度	……	三三、五元	三三、〇九	九、八二	二五、三三	一八、九元	一四、五元
比 律 賓 諸 島	七、二五	一〇〇、四四	九、三三	元、九七	一、〇元	三、〇三	一、四元
運 羅	……	一〇、七七	二六、八七	三六、三九	三〇、六六	三〇、六六	三三、三三

英 吉 利	五、六六	八、五元	七〇、六〇	二〇、八五	二、七六	一、九、一〇	二、八七
佛 蘭 西	五、一七	五、三九	……	一、六〇	二、四四	五三	……
獨 逸	一五	三三、三三	九、八九	六、六一	……	……	……
奧 太 利 匈 牙 利	三、八六	……	……	……	……	……	……
瑞 士	……	……	……	一、八四	四八	……	……
白 耳 義	九四	三、四四	二	……	……	……	……
北 米 合 衆 國	……	六、七三	一、五七	三三、五五	九、三三	三、九、七元	一、九、三六
其 他 諸 國	……	一〇、八五	一〇八	三三	二	四〇、七元	* 三、四八
合 計	五六、七五	三、七四、二〇	三、九八、四四	三、七六、二二	三、三三、六二	六、二九、四〇	三、九四、三三

〔備考〕 * 内三四六、九一一圓は假置場に於ける額なり。

即ち戦前に於ては、香港、及び瑞西等よりの輸入なかりしも、開戦後に於ては之を見るに至りしのみならず、戦前不振なる状態にありし暹羅及び北米合衆國よりの輸入が、著しく増進せしが上に、支那及び關東州等への輸出も亦開戦後激増するに至れり。然れども他面獨逸は勿論、白耳義よりの輸入杜絶し、又英吉利、佛蘭西、英領印度、蘭領印度、及び佛領印度、並に比律賓諸島等よりの輸入は少なからず減少するに至れり、之れ蓋し現戦亂の影響上當然蒙るべき現象と稱すべし。斯の如く海外輸入國の變遷著しと雖も、之を輸入合計額より觀察せんか、前既に記せしが如く昨年に於ては大正元年に比し實に十倍餘の激増を示し、開戦前年たる大正二年に比するも一倍六分強の増進を見るに至れり。即ち開戦後輸出

激増の趨勢と相俟て、其程度の差異こそあれ、輸入も亦著しく増進するに至りたるは、正に本市外國貿易上の發展と思惟するを得べし。

第三節 品種別貿易

第一項 輸出

翻つて品種別貿易の状態を見るに、前節記載の如く國別貿易の發展と相伴ひ、最近益々増進するに至れり。先づ輸出品に就て之を見るに、戦前殆んど輸出なかりし各種商品を數ふるに至りしも、他面に於ては開戦後輸出の見るべきものなき状態に陥りしものも、之れなきにあらず。乞ふ次表に就て之を窺ふべし。

輸出品名	昭和十一年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	昭和十一年
綿織物	二六、四四	五五、五八	一八六、五四	一七七、三三	一、六〇、〇四	二、六四、〇五	二〇三、四三
綿織物	七九、六六	九五、〇〇	一、三三、〇七	九七、四四	一、六七、三六	三、一八、八〇	一、八七、三六
莫大
綿織物
麻織物	一六、五七	一三、〇六	一九、一四	二〇、八一
履物類	四、一五	五、七一	一五、三〇	二八、八〇	三三、〇九	五、七四	一六、一六
陶磁器	一、八三、九四	二、三三、九六	一、九三、六九	一、九〇、七四	四、二六、一〇	五、三六、九元	一、六三、四八

硝子器	一、三六	八四九	三、四三	二八、〇三	五、五六	三八、九三	四、七八
鐵製品	八	二、三九	四八、〇八	九五、〇九	六六、六二	六、九五	六、九五
時計類	二〇、四九	三、四四	二四、七七	七〇、三九	八、八九	七、九三	七、九三
機械類	六、〇五	三、七七	三六、四六	六、五七	七、九七	九、九七	八、九三
漆器	一〇、二四	一、二六
製函器	三、九二	一、五二	二、六九	三、九一
玩具	五、四六	三、七〇	三、〇〇	二、五五
樂器
扇子及團扇	一四、六七	一四、七四	三、五〇	四、三八	八、七一	二六、五九	一、六三
提灯其他各種紙製品	一〇〇	三、三三	一六、三六	三三、八九	九、二九	一八、〇九	三、四七
竹籠	五、一〇	五、〇〇	三、三三	四、九七	五、七四	四、三三	三、〇七
燗寸
氷砂
酒類	五、〇八	五、三二	二、三二	三、一七	二、〇九	四、六七	四、八二
豆類	六、五八	一、七〇
木材及板	一、六六	五、八三	八、四七	三、七二	五、一四	一、四〇	五、九八
其他	一三、三九	五、四三	一〇、九八	一七、九三	四九、三三	六、三三	一、三三
以上内國産合計	三、〇三、七三	四、〇三、一〇	五、八七、三三	六、三九、四四	一〇、三〇、二四	一六、〇三、五七	六、〇七、二二
外國産
總計	三、〇三、七三	四、〇三、一〇	五、八七、三三	六、三九、四四	一〇、三〇、二四	一六、〇三、五七	六、〇七、二二

即ち本市に於ける重要外國輸出品は、叙上二十有餘種に亘り、更に其主要なるものを擧ぐれば、陶磁器を第一とし、綿織物及び綿絲之に亞ぎ、以下製函類、木材及び板、玩具、硝子器、鐵製品、機械類、時計、竹籠、履物類、莫大小、燐寸等にして、綿囊及び樂器の兩品が、昨年に至り突如として、比較的多額の輸出を示せるに反し、麻囊は最近兩年に於て輸出なきに至れるは注目し値すべし。

更に大正七年に入りて輸出一一新現象を呈するに至りたるは、實に絹織物の直接輸出にして、最近に於ける輸出價額を見るに、大正五年に於ては僅に六百圓、同六年に於ては七千百參拾壹圓に過ぎざりしも、本年一月以降四月迄の四ヶ月間に於ては、一躍して四拾八萬參百參拾參圓に激増するに至れり。試に之を品種別及び輸出先に區別して表示せば左の如し。

羽二重(平織)	英吉利		支那		合計
	圓	圓	圓	圓	
子(絹綿製)	三九五、二七四	三九五、二七四	三九五、二七四
綿	五、四六九	五、四六九
絹	一、〇五八	七四、五九六
縮	五、八五七
綿	九、一三七
其他ノ絹織物(綿入共)	四八〇、三三二
合計	四六四、六六八	一五、六六四	四八〇、三三二

即ち絹織物輸出額の激増せしは、實に羽二重の新規輸出に基因せるものにして、本市輸出貿易上實に一新記録を作れるものと云ふべく、而して其羽二重が當市製品にあらずして、横濱商人が若狭方面より

仕入れ、之を本市商人を介して、本市より輸出せるものに係ると云ふに至つては、從來に於ける本市貿易上の舊習と全く相反し、横濱の貿易業者が名古屋港を利用するに至りたるの事實は、本市絹織物業若くは當地方が、本邦に於ける生絲の主産地たるの事實との聯想上、決して輕々に看過すべからざるの現象に屬し、今後に於ける同輸出が現況を以て進展するに至らんか、本年に於ける絹織物輸出額は約貳百萬圓、其内羽二重は百五拾萬圓内外の巨額に達すべくして、本市總輸出額の約一割に達するに至らん。

第一項 輸 入

翻つて重要輸入品を見るに、重要輸出品に比し、其數少なく、價額も亦少額なりと雖も、戦亂に因る變動は輸出同様著しきものあり、即ち左表の如し。

輸入品名	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
米
大豆	一、二〇〇、〇〇〇	八、九、〇〇〇	三、四、〇〇〇	三、五、〇〇〇	三、六、〇〇〇	三、七、〇〇〇
小豆
鹽
苛性曹達(粗製)
クロール酸加里
毛織絲(梳毛)

總計	14,940	13,833	27,773	21,588	...
綿
砂糖	7,253	2,017	5,049	4,641	4,978
石油(罐入)
石炭	3,164	3,107	7,308	15,287	3,471
鐵類
各種鐵製品
機械類
骨粉
豆糟
棉子
其他
以上外國產合計
內國產
總計

本表に據り本市の輸入重要品を見るに、豆糟等の肥料類を第一とし、米及び粉之に亞ぎ、以下大豆、石炭、石油、小豆等相順次して、昨年以降比較的多額なる鹽の輸入を示せるに反し、開戦後に於てクロール酸加里、及び苛性曹達等の如き工業藥品、或は毛織絲の如き工業原料の輸入全滅或は激減を呈せるは、輸入貿易上の異變として注目すべし。元來我が名古屋市に於ける各種工業原料の需要は、軌近益々

旺盛に向へるにも拘はらず、其外國輸入は之と相平行せず、其増加の割合小なる所以のものは、蓋し主として海運上の關係に因り、四日市港に陸揚さるるものあると、取引上の關係に因り、多くは尙間接貿易の形式を踏襲して、阪神等の貿易業者との取引あるに起因せり。之れ綿綿、工業藥品、或は其他各種原料の直接輸入額の僅少、或は皆無なるに至りし所以なりとす。

第三章 外國爲替取組の趨勢

第一節 概 說

我が名古屋市に於ける外國貿易は、前章叙説の如く開戦後急激なる發展を示すに至りたるを以て、之と隨伴して外國爲替の賣買取組も亦顯著なる増進を呈し、之を戦前と比較せば、其發達の急激なるに一驚を喫すべし。試に明治四十五年—大正元年以降最近に至る數年間の發達増進の跡を窺ふに、實に左の如し。

年	輸出爲替		輸入爲替		合計	
	金額	増加率	金額	増加率	金額	増加率
明治四十五年—大正元年	58,721	100.0	80,000	100.0	138,721	100.0
大正二年	79,433	135.1	81,110	101.1	160,543	116.0
大正三年	82,899	141.0	117,000	146.3	200,899	145.1

大正四年	一、三三、六〇	三〇・九	九、一一〇	一一・三	一、一四、〇〇〇	三三・一
大正五年	二、九九、六七	四〇・四	二〇、八八一	二五・九	二、三三〇、五八	四〇・一
大正六年	六、〇〇、二八	一三三・二	二、六八、三三〇	三三・三	一〇、〇八、七〇	一、〇六・六
大正七年(四月迄)	三、〇四、〇六〇	……	二、〇九、〇三二	……	五、七九、二三	……

〔備考〕 本表は外國爲替の取扱をなす本市の各銀行(他市よりの支店銀行をも含む)よりの報告のみに基きて作成し、他市例へば神戸、大阪、及び横濱等に於て直接取扱ひたるものを含まず。以下亦同じ。

即ち戦前に於ては僅に輸出入爲替合計七拾四萬圓以下に過ぎざりしも、開戦後に至つては、百拾四萬圓以上に達し、大正五年は前年に比し一倍以上の増進をなし、同六年に於ては前年に比し四倍以上に達する急激なる増進を示し、更に本年に入りては去る四月迄に於ける四ヶ月間に於て、既に前年の半額以上に達せるより觀察せんか、全一ヶ年に於ては昨年よりも、更に著しき増加を示すに至るは、蓋し疑ふべくもあらず、況んや叙上の統計は、本市に於て直接取扱ひたるものゝみに限り、他市に於て取扱へるものを除外せるに於てをや。斯くして大正元年を基準として開戦後に於ける外國爲替買取組總額の増進率を見るに、大正四年に於ては二倍強、同五年に於ては約四倍半を示し、更に同六年に至つては十九倍以上に達する急激なる増進を呈するに至れり。

本市に於ける外國爲替の買取組は、輸出手形を主とし、輸入爲替の少額なるは、前表に於て瞭かなり。即ち戦前に於ける輸入手形の輸出手形に對する割合は、僅に一分一厘以上一分五厘内外に過ぎずし

て、開戦後の大正五年に至るまでは、殆んど同様の形勢にして、時に其割合を減少せしことありしも、昨大正六年に至つては俄然四割六分強に増加せり。然れど尙ほ兩者の間に著しき懸隔ある所以のものは、主として海外貿易上の取引方法に關聯せるものにして、本市に於ける直接海外輸入品の價額は、同輸出品價額に對し少額にして、多くは阪神等の貿易業者の手を経る間接貿易なるに因れり。

第二節 國別爲替手形

第一項 輸出爲替

最近數年間に於ける本市の外國爲替手形賣買取組高は、前節叙説の如く最近増加せしに伴ひ、其仕向國及び仕向國も亦自ら擴大するに至れり。先づ輸出手形に就て之を見るに、大正三年頃までの仕向國は、僅に支那、比律賓諸島、英吉利、北米合衆國、加奈陀等に過ぎざりしも、開戦後に至りては著しく其數を増加し、叙上諸國の外更に關東州、香港、海峽植民地、英領印度、蘭領印度、濠洲等を加ふるに至れり。試に明治四十五年—大正元年以降是等各國に仕向けたる爲替額を表示せば左の如し。

支那	明治四十五年—大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年(四月迄)
關東州	……	……	……	……	……	……	……
香港	……	……	……	……	……	……	……
比律賓諸島	……	……	……	……	……	……	……
英吉利	……	……	……	……	……	……	……
北米合衆國	……	……	……	……	……	……	……
加奈陀	……	……	……	……	……	……	……
海峽植民地	……	……	……	……	……	……	……
英領印度	……	……	……	……	……	……	……
蘭領印度	……	……	……	……	……	……	……
濠洲	……	……	……	……	……	……	……

北亞米利加洲	北米合衆國	三,七五〇	四,七九元	一四,九三三	四,二五三	一三,八〇五	一八,〇〇一	三九,九四八
總計		八,〇三六	八,二二〇	三三,三〇六	九,一〇〇	二〇,八〇二	二六,六三〇	二〇,九四〇三二

本表に據りて之を見るに、開戦前に於ける輸入手形は、殆んど支那及び北米合衆國よりの仕出に係り、其額は大體上互角の勢を呈せしも、開戦後に至つては北米合衆國は漸次其額を増加し、大正五年は支那に對する二倍、同六年は三倍強に達するに至りしも、關東州に比しては大正六年に於て僅に其一割に過ぎず。而して開戦後大正五年以降に於ては英吉利との爲替關係なきに至りしも、他面關東州、香港、海峽植民地、英領印度等を増加し、著しく其の範圍を擴大せしこと、正に輸出手形に於けると同じきものあり。斯くして開戦後最近(大正六年)に於ける狀況は、關東州最も多額を占めて、總額の六割一分強に達し、北米合衆國は六分強を以て之に亞ぎ、其他海峽植民地は一割七分弱、香港は一割四分弱を示し、支那は僅に二分弱を以て最下位に陥れり。即ち輸入手形に對する重要國は、關東州を第一とし、以下北米合衆國、海峽植民地、及び香港等なりと云ふべし。

第三節 品種別爲替手形

第一項 輸出爲替

前節叙説の如く海外諸國と本市との爲替關係は、近年益々増進するに至れり。之れ主として本市に於

ける外國貿易の發展に基因せるは、敢て言を要せざる所にして、外國貿易の發展は、當に取引國を増加するに止まらず、又輸出入貨物の種類をも増加せしむるものなり。之を以て本市輸出品に對する外國爲替手形に於ても、最近其種類を増加し、之を戦前と比較せんか、其變化の著しきものあるを認むるを得べし。左に各輸出品別に分類せる外國爲替の賣買取組額を表示せん。

種 類	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
綿 織 物	八,八〇〇	八,九三九	一三,一三三	六,九二七	一,七三三,九六六	一,〇四四,三〇〇
綿 織 物
莫 大 小
陶 磁 器	三〇,五〇九	三七,〇六七	二六,〇九二	四三,七〇七	五三,〇〇八	一,七七七,二四八
硝 子 器
珠 瑠 鐵 器
時 計
機 械 類
製 函 類
玩 具	二七四	一四,〇二二	二八,七五五	五,九七七	四三,〇三三	一〇,〇九七
樂 器
竹 籠
織 寸

木材及板
其他	二〇五、五五五	三六、三〇一	四三、一五九	二九、三三五	一〇六、八五五	一八五、〇四五	六四、〇一九	二〇、六九九
合計	五八七、一	三九、四三二	八八、四九八	一三三、三〇〇	二二九、六七七	七〇〇、二六四	三、七〇〇、〇〇〇

本表に據りて之を見るに、戦前に於ては僅に陶磁器に對するものを主とし、其他玩具、綿織物、竹籠等を數ふるに過ぎざりき。然るに開戦後に至つては叙上各品の外、製函、燐寸、樂器、木材及び板、瑯鐵器、硝子器、時計、機械類等に對する爲替手形を増加せるに至れり。尤も大正四年に於ては尙ほ未だ大なる種類の増加なく、同五年に於ても亦一見同様なるが如くの觀あるも、同年に於ける「其他」に對する數額が合計額に對し殆んど半額に達する多額を占むるに反し、前年に於ては僅に三分の一に達せざるより觀察せんか、大正五年に於ては前表に指示せし以外の各種商品に對するもの比較的多額なるを知らん。唯前表に於ける本市重要輸出品に對する外國爲替の著しく増進するに至りたるは、實に昨年以降のことにして、開戦の前後を論せず、數額の最も大なるは、實に陶磁器に對するものにして、開戦後に於ては綿織物に對するもの激増し、其他製函、玩具、樂器、竹籠等に對しては著しく増加し、綿絲、木材及び板、其他數品の昨年に至りて現はるるに至りしは、主として内外經濟界の情勢に基因するものと觀るを得べし。而して燐寸其他一二品に對する爲替手形が、本市に於ける直接輸出貿易額以上に著しく多額なる數字を示すに至りたるは、本市外國爲替買取組上に於ける一奇現象と看做すを得べしと雖も、之は本市當業者若くば貿易業者が、神戸其他に於て其製品を買求め、或は同港より輸出せしものを、本

市銀行に於て爲替關係を發生せしめしに基因せるものにして、本市に於ける製品以外、若くば間接貿易額に對するものをも含有せるに注目すべし。之を要するに、外國貿易の發展に因り、益々輸出品の種類を増加するに伴ひ、外國爲替手形の品種別分類に於ても亦、自ら増加するに至るは正に然からざるを得ざる所なり。

前表は概括的品種別外國爲替手形の狀況なりと雖も、一層之を明瞭ならしめんが爲め、更に進んで之を仕向國別に小分して、表示せば左の如く、之に據りて一目の下に品種別各國に於ける爲替關係の實際を推考するを得ん。

亞細亞洲

支那	國名		種別		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年		大正六年	
	支那	其他	計	其他	計	其他	計	其他	計	其他	計	其他	計	
計	
其	
樂器	
機械	
時計	
硝子器	
陶磁器	
莫大物	
綿織物	
綿絲	

歐羅巴洲

國名	種類		大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
	種類	金額						
英國	其	計	二,四八八	四,一六〇	二,四八九	一,九八四	七	一,三六八
英吉利	樂器
英吉利	玩具
英吉利	製陶
英吉利	磁器
英吉利	函器
英吉利	其他
其他歐羅巴諸國	其	計
其他歐羅巴諸國	陶磁
其他歐羅巴諸國	其他
合計	計
北亞米利加州	種類 <td>金額</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td>	金額
北亞米利加州	棉織物
北亞米利加州	磁器
北亞米利加州	玩具
北亞米利加州	樂器
北亞米利加州	其他
合計	計

濠洲

國名	種類		大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
	種類	金額						
加奈陀	其	計
加奈陀	樂器
加奈陀	玩具
加奈陀	製陶
加奈陀	磁器
加奈陀	函器
加奈陀	其他
合計	計
濠洲	種類 <td>金額</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td> <td>...</td>	金額
濠洲	樂器
濠洲	玩具
濠洲	製陶
濠洲	磁器
濠洲	函器
濠洲	其他
合計	計

第二項 輸入爲替

翻つて輸入品別に據る外國爲替手形を見るに、戦前は勿論、開戦後大正五年に至るまでは、其種類多からず、本市重要輸入品に對する爲替手形の賣買取組を見るに至りたるは、實に昨年以來のことなりとす。例に依り之を表示せば左の如し。

種 類	開國十一年—壹年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
米
豆 類
鐵 類
石 油
大 豆
其 他
合 計	八〇八	八三〇	三、三〇六	九、一〇〇	二〇、八四一	三六、八三〇	二、〇四、〇〇一

即ち大正五年までは比較的少額の輸入貿易額にしか達せざる各種商品に對し、僅に貳萬千圓以下の少額なる外國爲替額を示せしに過ぎざりしと雖も、昨大正六年に至つては、前年に比し一躍百四十二倍以上に達する激増を示せしと同時に、従前現はれざりし米、豆類、鐵類、石油、大豆糟等の重要輸入品に對する爲替手形を出し、引續き現下に至り、本年一月以降四月に至る四ヶ月間に於ける額にして、前年

以上の増加を示せるは大豆糟を第一とし、鐵類之に亞ぎ、叙上以外の各種商品に對するものは、遙に前年一ヶ年の額を突破して五割七分強の増進を示せるの結果、各種商品に對する合計額は、既に前年に比し約七割の増進を示せるを以て、本年一ヶ年の總額に於ては遙に前年より多額を算するに至るべく、以て各輸入品に對する外國爲替手形の増加せる一斑を察するに足らん。
更に前項輸出手形と相對照せしめんが爲め、左に品種別各國よりの輸入貿易に對する爲替手形額を表し、以て一目の下に各國の情勢を推敲するの資に供せん。

亞 細 亞 洲

國 名	種 類	開國十一年—壹年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年
支 那	石 油
	其 他
關 東 州	豆 類
	其 他
香 港	米
	鐵 類
合 計	

國爲替手形のみ成就て觀察するときは、其増進率は著しく外國貿易の増進率を凌駕せり。即ち明治四十五年—大正元年を基準とし、各者に對する最近の増進率を見るに、外國輸出貿易は五倍餘の増進なるに對し、同爲替手形は十三倍半以上の増進を示し、輸入貿易に於ては約十一倍の増進なるに對し、同爲替手形に於ては實に約三十七倍の増加を呈せり。更に之を輸出入合計額に就て見るに、貿易に於ては六倍餘の増加なるに對し、爲替手形に於ては實に十九倍餘の増加に當れり。是に依りて之を觀るも、開戦後外國貿易の活躍に伴ひ、從來閑却されたる爲替手形の斯業上に重視さるゝに至れるを認識し得ると同時に、今後にも更に一層の増加發展あるに至るべきを察し得べし。左に明治四十五年—大正元年以降大正六年に至る各年の叙上兩者に於ける各別の増加率を比較對照せん。

明治四十五年—大正元年	輸出		輸入		輸出入合計	
	貿易	爲替	貿易	爲替	貿易	爲替
大正二年	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇	一〇〇
大正三年	一三二	一四一	六五七	一〇一	二二五	一四〇
大正四年	一九三	一七〇	七〇二	二六四	二七五	一七二
大正五年	二〇九	二一九	六五七	一一三	二八〇	二二一
大正六年	三三六	四四四	五八五	二五九	三七五	四四一
大正六年	五二五	一、三六二	一、〇八〇	三、六九三	六一六	一、九〇六

第二節 細 觀

第一項 輸出爲替

前章に於て其梗概を示せしが如く、大正四年以前に於て、本市より爲替を仕向けしは、支那、暹羅、比律賓、蘭領印度、英吉利、北米合衆國、加奈陀等にして、貿易關係ありし其他の諸國、即ち關東州、香港、英領印度、同海峽植民地、佛領印度、露領亞細亞、濠洲等に對しては、爲替手形の賣買取組を見ざりき。然るに大正五年以降に於て、貿易關係ありし諸國に對し爲替手形の仕向けなかりしは、僅に露領亞細亞、佛蘭西、南米諸國、喜望峰植民地、新西蘭等にして、其他佛領印度に對しても亦之れなかりしも、同國に對する輸出貿易は實に僅少に過ぎざるを以て、特に之を擧ぐるに値せず。而して叙上爲替手形仕向國に對する同金額の、輸出貿易額に對する比率を求め、其消長を觀察するに、先づ戦前より賣買取組ありし諸國の最近に於ける増進より云はゞ、北米合衆國に於ける戦前の三割内外より開戦後最近の九割二分弱に進みたるを筆頭とし、其他暹羅は二割三分弱より八割五分弱に、支那は二厘乃至四分弱より二割四分に、加奈陀は二分弱より五分弱に、各々増加せり。次に開戦後に於て爲替關係の生ぜし諸國中最も増進率の著しきは香港にして、大正五年の三分強より同七年四月迄の五十割三分強に進みたるを始めとし、關東州は大正五年の三分より同七年四月迄の十一割六分強に進み、又蘭領印度に於ては大正

四、五年の八割四分内外より同七年四月迄の八割五分弱に増進せり。其他英領印度、同海峽植民地等に於ける大正五年に於ける比率は、僅に二分内外に過ぎざりしに、同七年四月迄に於ては、一躍四割八分乃至九割八分強に増進し、濠洲も亦叙上年間に於て二分弱より二割一分強乃至三割七分強に激増せり。英吉利に對する大正五年の比率は百三十二割強、乃ち貿易額に對し十三倍餘の多きに達せるは、蘭領印度、暹羅、及び關東州に對する大正六年或は同七年四月迄の十七割九分強、十一割五分弱、及び十一割六分強と等しく、何れも貿易額よりも爲替手形取組額の超過を示せるものとして、是等四ヶ國に對する現象の他の諸國と相異なるものあるは、特に注目を要する所にして、斯の如きは神戸港其他よりの輸出品に對する爲替を本市に於て取組みし結果なりと云ひ得べし。之を要するに本市に於て、輸出品に對する爲替手形賣買取組額の、各國輸出貿易額に對する割合は、間接貿易額に對するものを除外せば、四厘乃至九割八分強にして、關東州及び北米合衆國に對しては何れも八割以上なるに反し、支那に對しては最低位の二割四分以下なるに注目すべし。乞ふ左表に據りて、叙上狀況に對する内容の詳細を窺ふ所あるべし。

	明治三十五年—大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年迄
支那	0.04	0.03	0.04	0.03	0.06	1.06	1.00
關東州	0.03	0.03	1.16
香港	0.03	0.03	0.03

英領印度	0.11	0.11	0.80
同海峽植民地	0.06	0.06	0.80
蘭領印度	0.09	0.09	0.87
暹羅	0.03	0.03	0.66
北米合衆國	0.03	0.03	0.16
加奈陀	0.08	0.08	0.11
漆太刺利	0.18	0.18	0.13
英吉利	1.04	1.04	0.04
其他諸國	?	?	0.09	0.09	?
合計	1.12	1.18	1.15	1.16	2.15	4.00	6.00

〔備考〕 明治四十五年—大正元年及び大正二年の「其他諸國」に對する比率は、貿易と爲替とは各其國別を異にするの結果、之を明にする能はず。

更に之を輸出品別に就て觀察するに、重要輸出品中爲替手形の賣買取組を示せるは、大正四年までに於て綿織物、陶磁器、製函、玩具、竹籠、燐寸等にして、綿絲、莫大小、麻囊、履物類、硝子器、鐵製品、時計、機械類、漆器、扇子及び團扇、並に其他の紙製品、酒類、豆類、木材及び板等に對しては、之れなかりき。然るに大正五年に於ては莫大小、更に同六年に至つては綿絲、硝子器、鐵製品、時計、機械類、木材及び板等に對する爲替手形を出すに至りたる結果、重要輸出品にして爲替手形の賣買取組なきは、僅に扇子及び團扇並に其他の紙製品、酒類等に過ぎざるに至れり。而かも輸出貿易額なくして

爲替手形の賣買取組を見し樂器(大正五年)及び燐寸(大正六年)を出せしが如きは、特に注目に値するものにして、此の如きは前記國別統計に於て叙説せしが如く、神戸其他より輸出して、名古屋港より直接輸出せざるものに對する取組額を示せるものなり。

斯の如くして、輸出品に對する爲替手形の賣買取組の比率を、戦前及び開戦後に亘りて其増進の趨勢を観るに、其最も顯著なるは、綿織物の戦前大正二年に於ける九厘より、開戦後最近の同七年一月乃至四月に於ける八割八分強及び、陶磁器の一割五分弱(大正二年)乃至一割七分弱(大正元年)より三割二分強(大正六年)乃至四割三分強(大正七年四月迄)に達せしものとす。玩具に對する爲替は不規則なる増進を示し、明治四十五年—大正元年に於ては僅に五分に過ぎざりしも、大正五年に於ては三割四分弱、同六年に於ては三割一分弱に増加せしも、同七年一月乃至四月に於て一割三分弱に下れり。大正二年及び同四年に於ては貿易額に對し、約四倍及び二倍半に達せるは、之れ亦名古屋港よりの直接輸出以外、更に神戸港其他より輸出せるものに對し、本市に於て爲替手形を取組みたるに因れり。竹籠の明治四十五年—大正元年に於て爲替手形取組額の貿易額より四割強多きも亦同様にして、之を除外せば、戦前大正二年の二割二分強より、開戦後の五割二分弱(大正六年)乃至六割一分弱(大正五年)に増加せるが如きも亦、著しき増進と稱すべし。更に燐寸の爲替手形に至つては、其の輸出額に對して二倍半以上(大正五年)乃至十四倍(大正四年)以上に達せしのみならず、大正三年の如きは貿易額なきに拘はらず、爲替手形の賣買取組を出せるは、縷

記の如く本市以外神戸港等に於ける輸出品に對する取組額を算入せるが爲なるも、其多額なるは特に注目に値すと稱すべし。樂器を除く其他の諸品は、大正六年に於て始めて爲替手形を出すに至りたるもの多く、其比率の最大なるは鐵製品の六割七分強にして、樂器の五割八分強之に亞ぎ、以下木材及び板の一割二分弱、綿絲の六分強、時計の五分弱、硝子器の四分、機械類の二分強等にして、以上の内樂器のみは、大正五年に於て輸出額なきに爲替手形の取組額を出せり。然るに大正七年一月乃至四月に於て綿絲、硝子器、木材及び板等に對する爲替は何れも増進せしに反し、鐵製品、製函、時計等に對しては何れも減少するに至れり、以て輸出品に對する爲替手形の賣買取組の狀況を察するに足らん。尙左表に據り、叙上輸出貿易額に對する爲替手形の賣買取組額の比率の詳細を窺ふ所あるべし。

輸出品名	明治十一年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年四月迄
綿絲
綿織物	...	0.02	0.05	1.05	0.03	0.04	8.04
莫大	0.06
陶磁器	...	1.07	1.04	2.07	1.04
硝子器	0.00	0.05
鐵製品	0.03	1.06
時計	0.02	0.06
機械類	0.03	0.06
計	0.03	0.06
類	0.03	0.06

第四章 外國貿易上に於ける外國爲替の地位

第四章 外國貿易上に於ける外國爲替の地位

	製	玩	樂	竹	橋	木	其	合
函
具	〇・五	三元・四
器
籠
寸
板
他
計	一・七二	一・八一	一・五	一・七四	一・六	二・五	四・元	六・〇元

〔備考〕××は爲替取組額のみありて、其に對する貿易額なきを示す。

第二項 輸入爲替

輸入品に對する爲替手形は、前章既に表示せるが如く、之を國別より觀るも、將た又品種別より觀るも、其範圍及び金額は著しく狭小にして且つ少額なりとす。先づ國別に就て其狀勢を窺はんに、戰前は殆んど支那及び北米合衆國を主とし、其他は英吉利より少許の取組ありしのみなりしも、開戦後に於ては關東州、香港、海峽植民地、英領印度等を加ふるに至れり。随つて輸入貿易關係ありし關東州は大正五年まで、香港は同三年まで、英領印度は同六年まで、夫れ々爲替手形の賣買取組を出さずして、其他輸入貿易關係ある蘭領印度、佛領印度、露領亞細亞、比律賓諸島、暹羅、佛蘭西、獨逸、埃太利、匈牙利、瑞西、白耳義等は爲替關係を生せず。又英吉利は大正五年以後に於て之を杜絶するに至れり。

斯の如くして叙上爲替關係を有する諸國に對する爲替手形の賣買取組額が、其輸入貿易額に對し如何なる比率を占めしやを觀るに、支那は戰前に於ける六厘(大正二年)及び二分(明治四十五年—大正元年)より、開戦後大正六年の四分強及び同七年一月乃至四月の一分強に増進せるに對し、北米合衆國は戰前の明治四十五年—大正元年に於ては輸入貿易額なきに、單り爲替手形金額を示せるは暫く之を措き、同二年の七分強より開戦後同六年の五割強に増進し、更に同七年一月乃至四月に於ては百三十五割餘に激増せり。香港は大正四年の一割四分強より同六年の五十倍餘、及び同七年一月乃至四月の十割五分強に激増せり。其他關東州は大正六年に於て四割八分強、同七年一月乃至四月に於て八割四分強を占むるの實況なり。更に左表に據りて、一層其内容を窺ふべし。

	明治四十五年—大正元年	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年四月迄
支那	〇・一〇	〇・〇八	〇・〇八	一・〇一	〇・〇八	〇・四三	一・一五
關東州	四・八四	八・四三
香港	一・四三	...	五・二四	一〇・五三
海峽植民地	?	?	...
英領印度	〇・〇九
英吉利	〇・〇五	〇・八七
北米合衆國	×	〇・七五	九・九〇	〇・五	一・四三	五・〇五	一三・〇一
合計	〇・一三	〇・〇一	〇・〇九	〇・〇一	〇・〇八	四・八五	...

第四章 外國貿易上に於ける外國爲替の地位

翻て品種別に據る爲替手形賣買取組の状況を観るに、第二章に於て表示せる重要輸入品中、爲替手形の賣買取組あるは、之れ亦前章に表示せしが如く僅に米、豆類(大豆)、鐵類、石油、大豆糟等にして、而かも主として大正六年に於て之を見るに至りたるに過ぎざるを以て、之が戦前との比較を求むる能はず。其他の重要輸入品即ち小豆、苛性曹達、クロール酸加里、毛織絲、繰綿、砂糖、石炭、機械類、骨粉、棉子糟、鹽等に對しては未だ著しき爲替手形の賣買取組を出さざるが如く、唯以上諸品以外に屬する雜品に對する爲替手形賣買取組の増進は著しくして、戦前に於ては六分(大正二年)乃至八分(明治四十五年)大正元年)に過ぎざりしも、最近大正六年に於ては三十五割餘、同七年一月乃至四月に於ては二十九割餘に激増するに至れり。而して大正六年以降に於ける爲替手形賣買取組の最大なるは、名古屋港以外神戸港より輸入せしものを含有せる鐵類に對する百九十一割一分強乃至二百九十四割七分弱を除ひては、豆類の七割乃至七割五分最も多く、之に次いで石油の四割三分強、豆糟の二割七分乃至四割二分強、米及び粗の二割五分弱等なりとす。更に輸入貿易額に對する爲替手形賣買取組の比率を示せる左表に據り、叙上の内容を吟味すべし。

輸入品名	明治三十五年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年		大正六年		大正七年	
	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割
米及類
豆類
石油(輸入)

鐵類	明治三十五年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年		大正六年		大正七年	
	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割	割
鐵類
豆糟
其他
合計

第五章 外國爲替賣買取組の實際

第一節 賣買取組の状況

名古屋市に於ける外國爲替の賣買取組は、第一銀行名古屋支店、明治銀行、愛知銀行、住友銀行名古屋支店、及び名古屋銀行の五行に於て現今之に従事しつつあるも、第一銀行及び住友銀行の兩支店を除けば、他は何れも間接取扱に係り、正金銀行及び臺灣銀行等の本支店を経由せるの實況にして、而かも叙上兩支店銀行に於ける直接取扱も、其範圍自ら局限され居るを以て、本市に於ける外國爲替の直接賣買取組は尙未だ幼稚にして、大勢は依然として間接取扱をなすの舊態たるを免れず。

本市に於ける外國爲替手形賣買取組の起源を尋ぬるに、明治三十九年三月第一銀行名古屋支店に於て支那牛莊に對して之を直接に試みしを以て嚆矢とし、尋で明治四十三年三月に至り明治銀行は間接取扱を開始し、同年七月愛知銀行亦之に倣ひて之に従事するに至れり。越えて大正四年十一月住友銀行が本市に支店を開設するに及び、併せて本事務をも開始せしも、大正五年十二月までは、本市銀行と等しく

間接取扱に過ぎざりき。然るに大正六年一月直接取扱に進み、稍々本事務上の便宜を助長するに至れり。其他名古屋銀行は大正五年八月に於て間接取扱を開始し、茲に本市三大銀行は何れも外國爲替手形の買取組に従事するに至り、前日に比すれば本事務上一進歩を來たせしが如しと雖も、東京及び大阪よりの支店銀行が何れも充全なりと稱する能はざるまでも、兎に角直接取扱なるに反し、叙上本市土著の三大銀行に於ける取扱が間接なるは、特に注目し値すべきものなり。而して第一銀行名古屋支店に於ける取組區域は従前主として東洋方面のみなりしが、大正五月十一月に至り、歐米其他の方面へ直接取組の開始を試むるに至りしと雖も、多くは海外に設置せる正金銀行の支店或は出張所と取引するの形式を探り、外國銀行との取引に於ては、内地本店を経由せる所謂間接取扱なるのみならず、從來に於ける取扱高は多額に達せざるの狀態なりとす。之を要するに、本市としては未だ専門の爲替銀行の設置あらざるを以て、其買取組上諸種の不便を免れざるの實狀に思を致すべきなり。

試に専門の爲替銀行なきが爲に、常に當業者の蒙り居れる不便不利の著しきものを列舉せば、大略左の如きものあり。

(イ) 取組上時日の遅延 之れ直接取組ならずして、所謂取次なる形式より當然招來する不便の著しきものにして、相場其他細大の事項を一々直接爲替銀行へ照會する等の爲に生ずる現象の一なり。之が爲め書類郵送上メール日の間に合はざる等諸種の不都合を生じ、更に進んでは商機を逸し、其他鮮少な

ざる不便不利を當業者に與ふるは言を要せず。

(ロ) 爲替率の高價 直接取組たると、他の代理的取次たるとの差に因り、自然爲替率に多少の相違を生じ、此の差額は結局爲替取組依頼人たる當業者の損失に歸すべし。

(ハ) 手續上の煩瑣 爲替取組上代理的取次たる以上は、何事も所謂親銀行たる専門爲替銀行の指令に待ち、自ら之を取計ふこと少なきを以て、依頼人の側より云はゞ煩瑣なる手数を強ひらるゝの傾向なしとせず、偶々取次銀行の自由裁量に因り取計ひたる事項も、爲替銀行の承認せざるか、或は手續上の相違等よりも亦、煩瑣なる手續を要するに至ることあり。

更に名古屋港に於て船積せざる場合に於ては、著しき不便あるを常とす。即ち神戸又は横濱等にて船積せる貨物に對する爲替取組は、同地の船會社にて發行さるゝ「ビル、ラフ、レーディング」は、一旦本市に郵送されて、保險證、「インボイス」等を作成し、領事の證明の爲め之を其駐在地へ送付し、更に當市へ返付されて爲替取組を了し、三度横濱、神戸等へ送付し、信用狀なれば初めて支拂はれ、取立なれば仕向地銀行へ轉送するの手續なりとす。然れども日曜日、休日、或は船便の都合等にて非常に時日を空費し、常に一航海又は二航海書類の延著を免れ難きの恐れあり。

(ニ) 相場の不明 代理的取次の形式に據る爲替取組の方法に遵ふ場合と雖も、取次銀行は斷えず直接爲替銀行より爲替相場を照會せるも、元來爲替相場は内外經濟事情の變異に因り刻々變動するを免れざ

るを以て、時に取次銀行は其時に於ける精確なる相場を知悉せざる場合なしとせず。隨て爲替依頼人に對し即答し能はざるが如き不便を生ずることあり。

(本) 調査不整備 直接専門銀行ならざる代理的取次の常として、勢ひ海外取引先の調査不整備に陥り、即時に爲替依頼人の所要を満足せしむること能はず。隨つて取次銀行は直接裁定の爲替には非常の危険を感じ、之が取組に躊躇するの傾向あり。

其他信用狀金額に對する何割かの擔保の提供を要求する等尙幾多の不便なきにあらざると雖も、概觀上前記の如き狀勢なりとす。而して之れ一に直接専門の爲替銀行あらざるが爲に由來するものにして、其當業者に與ふる苦痛は蓋し大なるものあるは、惹ひて本市外國貿易の發展に鮮少ならざる累を及ぼすを免れず。

斯の如く、本市に於ける爲替取組は主として代理的取次に過ぎざるの狀態なるを以て、本市より海外諸國に對する爲替の直接取組は寔に僅少にして、試に叙上住友銀行及び第一銀行の各本市支店に於ける直接取扱高に就て觀察せんか、第一銀行名古屋支店に於ける大正五年以前の取組は殆んど之なきを以て、住友銀行名古屋支店の直接取扱後なる大正六年一月以降に於ける叙上兩支店銀行の取組狀況を示さば、實に左表の如し。

(イ) 輸出爲替

國名	大正六年	大正七年迄	品種	國名	大正六年	大正七年迄	品種
支那	二四、五二	一六、七五	綿絲、綿織物、陶磁器、機械類、其他	比律賓諸島	一、三三	……	其他(雜品)
香港	……	六、六五	陶磁器	英吉利	二、三三	一、八四三	陶磁器、製函、樂器、其他
暹羅	一、五九	……	其他(雜品)	北米合衆國	一、六、七七	100,013	綿織物、陶磁器、樂器、其他
海峽植民地	四、六六	……	綿織物、製函、其他	加奈陀	二、五九	……	陶磁器、製函、玩具
英領印度	九三、九五	三三、〇三	綿絲、綿織物、陶磁器、製函、玩具、樂器、其他	濠洲	六、三	……	陶磁器
蘭領印度	九七	……	製函	合計	五九、五四	五九、六二	

(ロ) 輸入爲替

國名	大正六年	大正七年迄	品種	國名	大正六年	大正七年迄	品種
支那	五、七三	五、六	其他(雜品)	北米合衆國	五、〇四	三〇、六九	鐵類、其他(雜品)
香港	一、五〇	……	其他(雜品)	合計	一、五、〇六	三、四、五九	
海峽植民地	一三、二四	六、三六	其他(雜品)				

即ち輸出手形は總高に對し僅に八分五厘弱(大正六年)乃至一割六分弱(大正七年一月乃至四月迄)にして、輸入手形は六分五厘強(大正六年)乃至一割八分強(大正七年一月乃至四月迄)に過ぎざるの狀況なり。而かも叙上の大部分は住友銀行名古屋支店の取組額にして、第一銀行名古屋支店の分は僅少にして、殊に輸出手形に於て然りとす。

事情此の如くなるを以て、是等間接及び直接取扱に係る總取組額が、貿易額に及ばざること尙ほ未だ

著しきものあるは、敢て怪むに足らざる所にして、最近に於ても輸出入貿易總額に對し本市より取組み得る同外國爲替手形の餘地は、大正六年に於て五割五分弱なりしも、本年一月乃至四月迄の四ヶ月間に於ては三割六分弱に減少し、漸次爲替取組額の増加を示せりと雖も、尙ほ叙上の如き餘裕あるは、神戸、大阪等に於て取組みつゝあるか、或は爲替作用を利用せざるものあるに基因すと云ふを得べし。之れ爲替機關の充實せざるに主因せるは勿論なりとす。然れども之れを戰前に於ける同餘裕の九割八分強(大正二年)、乃至八割五分強(明治四十五年—大正元年)に比較すれば、一大進歩と看做し得べくして、之れ他に其原因存すべしと雖も、其主因は爾後に於て前記の如く爲替取扱銀行の増加にあるや疑ふべくもあらず。

第二節 當業者の實例

上來説示したる外國爲替手形の賣買取組額は、専ら本市に於ける同取扱銀行のみに就て調査せる計數なるを以て、單に此の計數のみを以てしては、未だ以て本市當業者と密接なる關係を有する神戸、大阪、及び横濱に於て、當業者の賣買取組をなせる爲替金額を知ること能はざるのみならず、由來本市に於ける外國貿易は、尙ほ未だ直接貿易多からずして、叙上三市に於ける貿易業者との取引に係る間接貿易額大部分を占むるの状態なるを以て、之に對する爲替取組額も亦大なるものあり。之を以て一面叙上三市に於ける當業者の本市關係輸出品に對する爲替取組の實況を知悉するの要あると同時に、他面本市當業

者が是等の都市に於ける取組額を調査するは勿論、又其間接貿易をも觀察せざるべからず。然れども元來前者は其調査至難にして、叙上三市に於ける爲替銀行に就ても亦之を得る能はざりしを以て、遺憾ながら是等三市に於ける狀況を示す能はずと雖も、後者即ち本市當業者に於ける外國貿易、及び同爲替手形取組状態の一端を知るを得たるを以て、之に基き左に少しく説示する所あらん。

本市に於ける商工業者にして、外國に對する輸出入關係を有するものは、其數二百内外に達するも、多くは内地貿易をも兼營し、純然たる外國貿易業と稱するものは、其數比較的多からずと雖も、逐年増加しつつあるは之を疑ふべくもあらず。今是等當業者の中、重要な貿易業者三十名より報告し來れる最近三ヶ年餘の狀況を綜合して少しく研究する所あらん。先づ輸出方面の狀況を表示せば左の如し。

事項	報告當業者數		
	種別	大正四年	大正五年
輸出貿易額	直接	一、六八二、九五円	三、三〇三、一九〇円
	間接	一、五五七、七四	二、一〇六、七二〇
合計		三、一九七、九七七	五、四一〇、〇一〇
輸出爲替額	名古屋市	一、三三七、三五〇	二、一九五、三六六
	大阪市	二九〇、〇〇〇	五〇〇、〇〇〇
	神戸市	一四〇、〇〇〇	二一八、〇〇〇
	横濱市
合計	一、六四一、三五〇	三、六三三、三六六	

〔備考〕 本表の外、某大貿易業者の最近に於ける輸出爲替額は左の如くにして、本市に於ての取組に係れり。

第五章 外國爲替買取組の實際

四六

輸出貿易額(直接)	大正六年	大正七年 自一月至四月
輸出爲替額	五、四六三、七〇八円	三、七八九、九四八円
	二、九二四、九六六	一、八三一、四二五
右貿易業者は大正六年以降の報告のみにして、其れ以前に於ける輸出爲替額の報告なきを以て、之を前表に加算し能はざるに因り、之を別記したる所以なり。然れども試に之を前表大正六年及び同七年四月迄の數字に合算すれば、左表の如き巨額を算するに至るべし。	大正六年	大正七年 自一月至四月

輸出貿易額(直接)	大正六年	大正七年 自一月至四月
輸出爲替額	九、一九四、六四五円	六、九〇二、八四一円
	四、二二二、二七一	一、四七〇、三三九
	一三、四〇六、九一六	八、三七三、一八〇
	六、六八〇、二七二	四、四〇七、一八八
	八、〇九一、一七二	五、二二〇、九四九

本表に於ける直接外國貿易額は、第二章に於て表示せし同額に比し、大正四年乃至同六年の三ヶ年間は、大體上三分の一乃至四分の一、同七年四月迄は二分の一強なるに、其本市に於て取組める爲替額は、叙上各年に於て取組める本市總爲替金額(第三章参照)より何れも超過せり。従つて本表の貿易額に對する近似數となれり。此の如く叙上當業者の報告に係る本市よりの爲替取組額の割合に多額なる所以のものは、蓋し神戸、大阪等に於ける取組額の混入せるにあらざるか、然らずんば何に由りて斯の如き數字を算するに至りたるやは、第三章に於て表示せる統計を不正確とせざる以上は、不可解のことに屬す。而かも第三章表示の爲替額は、之を不正確とする能はざるの理由あるに思を致すべきなり。

次に叙上三十名の輸出貿易業者が、本市以外の他の三關係都市即ち大阪、神戸、及び横濱に於ける輸出爲替取組額は、前表の示せるが如く、本市に於ける取組額に對し大阪市は僅に七分弱乃至二割内外、神戸市は一分乃至二割強にして、横濱市は全然之なきの状態なるを以て、本市及び他の兩市に於ける爲替取組總額に對しては、本市は七割五分強(大正七年四月迄)乃至八割二分弱(大正四年)、大阪及び神戸の兩市は二割五分弱(大正七年四月迄)乃至一割八分強(大正四年)に過ぎざるを以て、大阪及び神戸兩市に於ける本市當業者の爲替取組額は實に僅少なりと云ふべし。然れども叙上は直接輸出貿易額に對しての狀況なるを以て、若し夫れ叙上三市の當業者に依りて取扱はるゝ間接貿易額に對する爲替取組額に至つては、蓋し巨額なるものあらん。之を單に叙上三十名の當業者の間接貿易額が、大勢上直接貿易額と相等しきものあるに徴するも亦之を知るに足らん。

翻つて輸入方面に於ては、直接貿易業者比較的になく、多くは間接貿易を主とせるを以て、殆んど輸出と等しき夥多なる輸入品取扱業者あるにも拘はらず、報告者は僅々十名に過ぎず。今其報告を綜合して、輸入貿易に對する輸入爲替の實況を觀るの一端に供せば、左表の如し。

事	報告當業者數	種別	大正四年	大正五年	大正六年	大正七年四月迄
輸入貿易額	一〇	直接	五、一〇〇、〇〇〇円	九三、六一九円	一、六七九、一六三円	六六〇、七六八円
		間接	七九、四四六	一、七一九、五三六	二、五八九、五九五	五三五、五七七
		計	五九九、四四六	二、六四三、一五五	四、二八八、七五八	一、一六六、三二五

第五章 外國爲替買取組の實際

四七

名古屋市	五二九、四六六	五〇〇、六五五	一、四五五、三七六	四五五、六七七
大阪市
神戸市
横濱市	一、〇〇〇
計	五二九、四六六	五六一、六五五	一、五〇〇、三七六	四五五、六七七

〔備考〕 本表も亦輸出方面に於ける同一理由を以て、某大貿易業者の報告を別記せざるべからざるの要あり。即ち其最近の輸入貿易額に對する爲替額は左表の如くにして、悉く神戸、大阪及び東京に於ての引受に係り、本市に於ての引受は之れなし。

輸入貿易額(直接)	七、六五五、七〇七円	三、五八二、七八七円
輸入爲替額	一、六六一、四四二	八〇五、七五四

更に之を本表前記の兩年の數字に併算せば左の如く、直接輸入貿易額は兩年共、本市全直接輸入貿易額に比し約五割乃至約一倍の多きに達するを以て、其計算上の根據に對し疑なき能はずと雖も、姑く報告のまゝを記載す。

直接	九、三三四、八七〇円	四、二四三、五五五円
間接	二、五八九、五九五	五三五、五七七
計	一一、九二四、四六五	四、七七九、一三二
本市以外	一、六六六、四四二	八〇五、七五四
本市との合計	二、九一一、八一八	一、二六一、四三一

例に依り本表に於ける直接輸入貿易額を、第二章に於ける本市總直接輸入貿易額と比較對照するに、三分の一乃至四分の一に過ぎず(但し「備考」の數字を除く)。而かも大正四年乃至同六年に於ける叙上當

業者の本市に於ての輸入爲替は、總輸入爲替(第三章參照)に比し、遙に多額にして、其以下に下りたるは大正六年以降のことなりとす。斯の如き現象は、之れ亦輸出爲替に於けると同一の現象なりと認めざるを得ず。而して本市以外に於て本市商人の爲替取組は横濱市(若くは東京市)あるのみにて、而かも横濱市の如きは非常に少額なりとす。更に間接輸入を顧れば、上表に於けるが如く大勢上遙に直接輸入を凌駕せるを以て、本市以外關係三都市に於て其當業者に依りて取扱はれし間接貿易に對する爲替は、蓋し本市當業者の取組めるものより巨額なるを知るに足らん。

之を要するに、斯の如く輸出入とも本市以外叙上三市に於ける當業者に依りて取扱はるる貿易額は、本市よりの直接貿易額を遙に凌駕せるを以て、其爲替取組額も亦非常に大なるものあるを察知すべきなり。尤も叙上當業者の報告に依れる計數は、嚴格なる意味に於て正確を缺けるものなきやを保せざるは云へ、少なくとも之に據りて其大勢を知るの資料たるを得ん。

第六章 外國爲替機關改善の急務

第一節 直接爲替取組の開始

上來説述せるが如く、本市に於ける外國爲替は輒近急激なる増進を示すに至りたりと雖も、尙ほ今後増進すべき餘地を存し、未だ以て完全なる發達を來たざる所以のものは、素より他に諸種の原因存す

べしと雖も、主として爲替機關の充實せざるに基因すると稱するも、敢て過言ならざるべきを信ず。即ち神戸、大阪等に於ける爲替銀行の取次たるに止まる以上は、前章に叙説せるが如き各種の不便不利を免るゝ能はず。而して此の如き不便不利は管に商取引上等閑に附す能はざる重大事なるのみならず、又進んで將來に於ける内外商工經濟上に累を及ぼすものあるは、敢て多言を要せざる所なるを以て、此の如き現状は一日も速に之を改善し、以て本市商工業の將來に於ける發展に資する所なるべからず。然らば則ち如何にして、之を改善すべきや。之れ他なし、今日に於ける取次の状態より一轉して、直接取引たる所謂専門的爲替業務の開始を試むるにありとす。然るに世間或は本市商工業界の現態上、未だ遽に専門的爲替業務の開始を許さず、假令之を開始するも能く收支相償ひ、以て營業を成立せしむるに至るや疑なき能はず、換言すれば時機尙早なりと論ずる者なきにしもあらずと雖も、斯の如きは蓋し過去に於ける現象のみを捉へ、又以て爲替開始に因る今後の發展に對する豫測に精ならざるの致す所なりと云はざるべからず。

抑も本市に於ける外國貿易は現戰亂勃發前に於ては、未だ以て十分なる發展を示さざりしと雖も、現戰亂の好影響は本市商工業の各方面に彌蔓し、之が爲に外國貿易も亦急激なる發展を示すに至りしに伴ひ、從來閑却されし外國爲替の取組も亦既説の如く一昨年以來急激なる増進を示し、明に爲替機關の本市外國貿易上益々重大なるを證明するに至れり。斯の如く益々重大なる意義を加へつゝある本機關をし

て、現状に止まらしむるは、本市商工業上果して克く之が默過を許すべきや。吾人の調査を以てすれば各營業者は其改善を一日も速かならしむるの念頗る切なるものあるを認む。即ち本問題は管に營業者個人の利害の依つて岐るゝ所なるのみならず、進んで本市外國貿易上は勿論、一般商工業の休戚に至大の關係を有するものにして、又以て一面には本市金融機關の改善ともなり、其進展ともなり、今後本市の利害休戚上、實に重大なる影響を及ぼすに至るべきを思はざるべからず。

第二節 外國爲替機關改善の利益

第一項 總 說

本市に於ける外國爲替機關は既述の如き状態なるを以て、之を改善して直接爲替取組機關を新設するの利益なるは自明の理にして、一旦本機關の整備するに至らんか、今後に於ける利益は蓋し甚大なるものあり。試に之を概別するときは凡そ左の如し。

- 一、取組上それ自體より生ずる利益
- 二、外國貿易の發展
- 三、金融界の擴張
- 四、産業の革新

上記の外、尙ほ他の利益なきにあらずと雖も、要するに叙上を以て其重要なるものとす。乞ふ吾人は項を改め逐次論ずる所あらん。

第二項 取組上それ自體より生ずる利益

間接取次の取組なる現狀より直接取組に進むに至らんか、從來蒙りし諸種の不便利を一掃し、克く取組上の敏活を來すべきは明かなり。而して取組上の敏活は必ずや商取引上の圓滑を來たさしめ、外國貿易の發展を促すに至るべきは勿論、前章第一節に擧示せし諸種の不便利なる現象の反面なる各種の利益を齎らすべきを以て、敢て之を詳説するの必要なからん。

第三項 外國貿易の發展

外國爲替機關の改善に因りて蒙るべき前項の取組上それ自體より生ずる利益を以て、內的利益と唱へ得べくんば、之に因りて招致さるべき外國貿易の發展は、正に外的利益と稱し得べし。蓋し外國爲替と外國貿易とは元來密接なる關係を有し、其狀恰も車の兩輪、鳥の兩翼に於けるが如きものなるを以て、前者に對する機關の改善或は其狀態の進歩は、必ずや後者の發展を促さざるを得ず。惟ふに本市外國貿易が、過去數年前若くば戰前に於て、其進歩發展の著しからず、若くば現今に於ても尙依然として間接貿易多きを占むる所以のものは、素より直接外國航路、商工業經營の規模或は組織、並に其他の事情に胚

胎せりと雖も、主としては外國爲替機關の充實せざるに基因せりと稱するも敢て過言にあらざるを信ず。蓋し本機關の整備充實に因りて外國貿易に及ぼすべき影響は、(イ)直接外國貿易の増進、(ロ)他地方よりの輸出入品の誘致に因る本市外國貿易の増進とに區別して觀察するを得べし。即ち內面的、外面的に本市の外國貿易を進展せしむるものと云ふを得べきを以て、一旦此の如き狀態に到達するに至らんか、本市の外國貿易は實に隔世の感あるに至るべし。現今に於ける本市外國貿易額上より打算して、直接爲替業務の開始、或は専門爲替銀行の設立は時機尙早にして、果して能く營業上收支相償ひ得るやを憂ふるは、蓋し這邊の事情に對する研究を等閑視せるものと稱すべく、何等杞憂を必要とせざるべし。乞ふ吾人は進んで外國爲替機關改善の曉に於て、如何に本市の外國貿易額が増進し、専門爲替銀行の設立を可能ならしむるかの資料を示さん。

(甲) 直接外國貿易の増進 本市に於ける直接外國貿易額は、間接貿易額に比し尙遙に下位にあることは既説の如し。本市外國貿易を増進發展せしむるには、必ずや直接貿易を奨励せざるべからずとの論は、市民に依りて高唱せらるる所なりと雖も、然らば如何にして之を發展せしむるかの方案に至つては、未だ多く之を聞かざるの狀態にして、蓋し此の如きは、直接海外航路の充實、商工業者の規模或は組織の擴大、海外販路に對する取引或は調査機關の整備等と密接なる關係を有すと雖も、外國爲替機關の整備充實は實に至大なる影響を及ぼすべきを以て、之が實現を企圖せずして、徒に直接貿易の發展を冀ふは

恰も畫餅に等しきの感なくんばあらず。從來神戸、大阪、横濱等の商人を經由せる間接貿易額は、其調査困難なるを以て、精確なる數字を示す能はずと雖も、之を諸種の事情より推定するに、直接貿易額は本市全貿易額に對し、概觀上三割乃至四割内外なるが如くなるを以て、間接貿易は六割内外、即ち直接貿易に對し五割内外の多額を占むるの状態なり。而して此の如く間接貿易額が、遂に直接貿易額を凌駕せる所以のものは、上記の現象に基因せるを以て、外國爲替機關の改善を企て、直接爲替取組の途を旺盛ならしむれば、漸次間接貿易を改めて直接貿易に轉化し、從來に於けるが如く、神戸、大阪、横濱等へ依頼するの度を減じ、市運の活躍を來すべきは蓋し疑を容るべからず。即ち本機關の改善は本市に於ける對外取引上の革新となるのみならず、又其増進を來すべきものたり。之を試に大正六年の直接輸出入貿易額より推算せんか、同年に於ける該額は貳千貳百拾八萬貳千餘圓なるを以て、間接輸出入貿易額は上記の五割増として參千參百貳拾八萬參千餘圓と推定し得べきに因り、此の額を悉く直接貿易に移らしめ得るに至らんか、本市の直接外國輸出入貿易額は實に五千五百四拾六萬五千餘圓の巨額に達すべきに至らん。但し以上の計算は概算に過ぎざるを以て、若し夫れ精確なる間接貿易額を調査するを得んか、或は上記の額以上に達するやも計り難し。現に本市及び本市附近を始め本縣下に製産する生絲（玉絲其他を除く）は輒近著しく發展し、大正元年に於ける製産額は千六百貳拾五萬五千七百九拾五圓に過ぎざりしが、最近同五年に於ては激増して貳千七百拾五萬千四百四圓に進み、同六年に至つては更に

激増して一躍參千參百拾壹萬六千貳百五拾參圓に達し、概算上是等製産額の六割以上が海外へ輸出されつゝあるを以て、昨大正六年に於ける輸出額は實に概算貳千萬圓以上を算せしなるべし。即ち此の一事を以てするも、前記の間接貿易額が寧ろ少額に過ぎしを知るに足るべく、幸に此の如き巨額なる間接貿易を全然直接貿易に移すを得ば、本市の外國貿易界は面目を革むるに至るべし。外國爲替機關の改善豈に之を忽諸に附して可ならんや。

(乙) 他地方よりの輸出入品の誘致 外國貿易の進歩發展は一面海外直接航路の存在を必要とするは敢て贅言を要せざる所にして、名古屋港より海外へ對する直接航路は、現今の所尙未だ充實せず、僅に北支那航路、濠洲航路、及び上海航路等にして、亞米利加航路、甲谷陀、孟買航路、及び歐洲航路等を缺如せるも、今や愛知縣は本港の第三期擴張の計畫を企て、大に港備を整へんとしつゝあるを以て、今後其實現或は竣工の曉に於ては、叙上缺如せる諸航路も漸次充實するに至るべきが故に、今よりして之に備ふるが爲め、海外直接航路と相俟つて、外國爲替機關の改善を試み、其充實を實現せんか、從來是等の設備を缺如せるが爲に、本市以外本縣郡部は勿論、隣縣等よりの海外輸出品、或は其輸入品を本港へ吸収し能はざりしものをも、克く之を誘致するに至り、本市の外國輸出入貿易を活躍發展せしむるに至るべし。尤も斯の如きは一般商工業の趨勢と、其經營狀態の推移とに關聯するの多大なるは勿論なるを以て、急進的に或は輸出入品の全部を誘致し能はざるの事情存すべしと雖も、漸進的に増加發展すべき

は蓋し疑を容れず。

本市以外の本縣郡部或は隣縣に於ける外國輸出入港は、前者にありては武豊港、後者にありては四日市港、清水港、進んで敦賀港等をも數へざるべからず。以上の諸港の内最も本市と密接にして重大なる關係を有するは四日市港にして武豊港之に亞げり。清水港は前兩港に比すれば本市との關係重大ならざるも、將來地理的關係により本市外國貿易上輕視する能はざるの事情あり。敦賀港に至つては最も關係の密接ならざるものなりと雖も、今後に於ける金融機關殊に外國爲替機關の改善及び其の活動の如何に因りては、必ずしも之を等閑視する能はざるに至らん。四日市港は實に本市と唇齒輔車の關係を有し、本市の重要輸出入品は、多く本港を經由し、就中輸入品を以て然りとするを以て、將來外國爲替機關の改善及び其充實、並に直接外國航路の普及するに伴ひ、其輸入品の多くは名古屋港へ誘致し得べきものにして、輸出品の或者に於ても亦然り。武豊港より名古屋港へ誘致し得べき輸出入品は、其貿易額及び品種の點に於て四日市港の如く多大ならずと雖も、亦相應に名古屋港へ誘致するに至らん。然らば將來是等兩港より名古屋港へ誘致し得べき金額、及び其品種如何と云ふに、吾人は過去數年に於ける是等兩港の外國貿易統計に據り、將來の大勢を卜するの資とせん。即ち左表の如し。

一、四日市港外國貿易
(イ) 國別輸出入

國名	輸出				
	大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年
支那	1,351,600	1,701,500	951,000	1,777,300	1,531,600
關東州	1,377,900	587,000	2,000,000	1,277,000	2,811,000
香港	5,600	7,200	7,000	5,000	7,000
英領印度	59,800	39,000	37,000	59,000	76,000
同海峽殖民地	8,300	6,600	2,900	2,700	2,600
佛領印度
佛領印度
比律賓諸島	1,100	1,500	1,300
暹羅	1,300	1,500
英吉利	3,600	...	2,600	1,500	2,800
北米合衆國	57,500	1,137,000	98,400	67,000	1,418,500
英領亞米利加	59,900	87,000	16,300	9,000	12,300
伯刺西爾
濠太刺利	377
其他	3,950	60
合計	3,950,500	4,333,900	4,008,600	3,300,700	4,586,600
支那	1,268,000	1,124,300	671,200	409,300	1,777,600
關東州	2,498,800	1,444,200	1,288,800	770,900	3,581,300
香港	4,700
英領印度	9,000,000	1,773,900	1,500,000	1,617,000	2,665,000
佛領印度
佛領印度
蘭領印度	...	1,119,900

輸入

暹羅 英吉利 佛蘭西 獨逸 白耳義 北米合衆國 其他 合計

Table of import values for various countries (暹羅, 英吉利, 佛蘭西, 獨逸, 白耳義, 北米合衆國, 其他) from 1911 to 1921.

(口) 品種別輸出入

輸出品名: 絹織物, 綿織物, 絲織物, 網物, 大朝子, 麥類, 履物, 陶磁器, 硝子器, 鐵製器, 時計類, 機械類, 製茶箱及板函

Table of export values for various goods (絹織物, 綿織物, 絲織物, 網物, 大朝子, 麥類, 履物, 陶磁器, 硝子器, 鐵製器, 時計類, 機械類, 製茶箱及板函) from 1911 to 1921.

輸出

木材 玩具 樂器 扇子 扇提燈 其他紙製品 竹籠 燗子 燗油 燗類 木製品 米類 茶類 蜜柑 落花生 合計

Table of export values for various goods (木材, 玩具, 樂器, 扇子, 扇提燈, 其他紙製品, 竹籠, 燗子, 燗油, 燗類, 木製品, 米類, 茶類, 蜜柑, 落花生) from 1911 to 1921.

二、武豊港外國貿易

(イ) 國別輸出入

支那	輸入										
	石	油	青性曹達(粗製)	硫酸アムモニウム(粗製)	綿	毛織絲(梳毛)	硝子板	鐵類	鐵釘(金屬チ鍍セザル)	機械類	肥料
明治十五年	三、四九八	四、九一〇	七、四九三	一、四七二	一三、二七三	四、一三〇	八、六五八	五、〇三三	七、二二八	三、五〇八	一、六八八
大正二年	七、四九三	二〇、五五九	九、九七七	一、五八〇	八、六八九	三、九二二	五、七九七	五、六九九	五、〇二〇	九、九二四	二、〇七三
大正三年	九、九七七	一七、五五九	一、一八〇	一、一八〇	二、七八八	四、〇六三	三、九三六	四、二二二	八、〇〇八	四、一三三	一、〇八八
大正四年	三、四九三	一七、五五九	三、〇六五	...	一、五〇〇	一、〇七五	九、八七八	四、二四八	一、〇六六
大正五年	三、四九三	三、二〇〇	六、八八〇	...	一、七〇〇	五、二四四	...	八、二五〇
大正六年	八、四〇〇	二、七〇九	三、五〇〇

(ロ) 品種別輸出入

支那	輸入					輸出				
	支那	英領印度	佛領印度	蘭領印度及南洋	露領亞細亞	關東州	海峽植民地	露領亞細亞	北米合衆國	合計
明治十五年	二、四三三	一、一五二	...	一、六八八	三、七九五	
大正二年	二、〇七三	二、八八八	...	五、九七〇	七、六七四	
大正三年	二、五五九	一、四〇一	...	八、八七〇	七、六六六	
大正四年	一、九七七	一、六五二	...	四、七三〇	五、〇七三	
大正五年	一、六八八	一、〇〇八	...	四、七三〇	四、九三三	
大正六年	一、一五二	一、三五一	...	四、九三三	四、九三三	

輸出 合計 三、七九五

輸入 合計 四、七三五

輸入		輸出	
大豆	二,三七,五〇	大豆	一,九〇,三二
小豆	四,三二	小豆	七,一〇五
胡麻子	二〇九,七六	胡麻子	一,八八
荳蔻	...	荳蔻	三,三三八
食鹽(粗製)	二〇,〇八五	食鹽(粗製)	七,七五二
大豆油	...	大豆油	二,一五三
揮發油	五八,七〇〇	揮發油	...
石油	四九,〇〇四	石油	...
布帛製品	...	布帛製品	...
古ガニニ袋	...	古ガニニ袋	...
石炭	五五〇	石炭	...
豆糟	一,五〇,五二	豆糟	...
米及、粗	一四六,四二	米及、粗	...
合計	四,五七,三三	合計	五,九〇,〇八

過去數年間に於ける四日市港及び武豊港に於ける外國貿易額は、逐年増進せること上表の如くなるを以て、名古屋港備及び外國爲替機關が現状の如くなる以上は、叙上兩港に於ける外國貿易は益々發展するに至るべし。然れども名古屋港備の充實を來たし、又外國爲替機關の改善を實現せば、右兩港に於ける外國貿易は果して能く從來に於けるが如き發展を期待し得べきか、吾人は必ずや其の幾割を名古屋港の爲に奪はるゝに至るべきを信ず。何となれば彼の石炭の輸入が名古屋港備の漸次整ふるに従ひ、前日の形勢を一變し、名古屋港へ其大部分を輸入するに至りし事實に想到するも亦明かなるを以てなり。其

他清水港に對する關係は地理上及び輸出入品種上、四日市港に於けるが如くなる能はざるは勿論、更に敦賀港に於ても同勢なるものあらんと雖も、今後に於ける施設活動の如何に因りては、必ずしも全然之等を放擲する能はざるものあるを認めざるを得ず。然れども此の兩港は近き將來に於ては貿易關係よりも、寧ろ爲替關係に於て密接なるに至るべきを信するが故に、其詳論は之を次項に譲らん。

第四項 金融界の擴張

外國爲替機關改善の本市外國貿易界に及ぼす影響及び効果は、實に前項所論の如く偉大なるに思を致さんか、吾人は極力之が實現に銳意努力せざるべからず。況んや本機關改善の利益は單り外國貿易上のみ止まらず、又他面金融界にも之を波及するに至るべきに於てをや。

抑も一般金融界殊に銀行界の振否如何は、素より一般商工業の盛衰如何に至大の關係を有し、而して一般商工業界の盛衰如何は、外國貿易の情勢如何に依るの甚大なるを思はざるべからず。果して然りとせば外國貿易の進歩發展を企圖するの策は、一面金融界の進展を齎すこととなるべし。況んや外國爲替機關其物は金融界に於ける一機關たるに於てをや。之を以て外國貿易を助長する本機關の改善は敢て外國貿易業者よりの提案を俟たず、金融業者に於て進んで之を實現すべき性質を有す。金融業者が本問題の實現に因りて金融界の擴張となり、發展となり、依りて以て其利益を蒙るに至るべきは、素と之れ當

然のみ。

之を本市外國貿易上より發生せる外國爲替額に就て觀るに、第三章及び第四章に於て叙述せるが如く、軌近著しく増進し、最近本年一月乃至四月の四ヶ月間に於ては、貿易額に對し六割四分強を示し、前年の四割五分強、及び前々年の一割七分強に比し著しく増進せるを以て、愈々本機關の改善に因り、從來の間接貿易を直接貿易に轉化せしむるに至らんか、益々以て爲替取組額を増加するに至るべし。而して從來本機關の不整備なるが爲め、本市貿易業者の多くは、既記の如く阪神等の専門爲替銀行へ依頼するの止むを得ざりしを以て、又此の間接爲替をも本市に吸収するに至るべし。

更に彼の縣下武豊港及び隣縣四日市港に於ける外國爲替に就て稽ふるに、從來多少本市との關係之れなきにあらざるが如しと雖も、其大部分は阪神等の爲替銀行に就て取組めるが如し。然るに四日市港の如きは外國貿易上本市との關係最も密接にして、勿論四日市港特殊の輸出入品少なからずと雖も、其重要輸出入品の多くは當地方よりの輸出、或は當地方への輸入に係れり。即ち同港の重要輸出品なる綿織物、綿絲、製函類、陶磁器等の如きは、當市若くは其附近よりの輸出少なからず。又重要輸入品たる繰綿は殆んど同港の總輸入額に達する多額の輸入を算せるが、少なくとも其半額以上は當地方へ輸入し居れるを以て、本市に於ける外國爲替機關が改善され、直接取扱の途開かるゝに於ては、從來阪神等にて取組める爲替は漸次本市へ吸収され、遂には貿易關係に於てのみならず、爲替關係に於て四日市港を全

然本市の勢力圏内に移すを得べし。武豊港に於ける外國貿易額は四日市港に於けるが如く多額ならずと雖も、叙上機關の改善に伴ひ、又其爲替取組を全然本市に依頼するに至る可し。即ち是等兩港の外國爲替が悉く本市に依て取組まるゝに至らば、本市の外國貿易と相俟つて如何なる額に達し得べきか、試に將來に於ける本市の外國爲替取組上の背景を考察するの資料として、左に過去數年に於ける是等三港即ち伊勢灣圏内に於ける外國貿易の發展を示さん。

		明治三十七年—大正元年		大正二年		大正三年		大正四年		大正五年		大正六年	
輸 出	名古屋港	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730	1,018,730
	四日市港	3,995,339	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996	4,333,996
	武豊港	3,735	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570	7,570
合 計	7,017,804	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	5,360,296	
輸 入	名古屋港	566,755	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105	3,742,105
	四日市港	1,984,400	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669	1,550,669
	武豊港	4,777,633	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022	5,990,022
合 計	7,328,788	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	11,282,800	
輸出入 合計	名古屋港	3,601,485	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210	7,484,210
	四日市港	3,010,930	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338	3,101,338
	武豊港	8,512,668	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044	11,980,044
總 計	3,125,083	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	12,564,592	

上表に於ける名古屋港の外國貿易額は直接貿易のみに止まれるを以て、若し夫れ今後外國爲替機關の

改善に因り、間接貿易の直接貿易に移る額を考量し、更に今後に於ける一般外國貿易の發展を豫想するときは、將來本市に於ける外國爲替取組額は前表の數字以上に達するに至るべく、斯くして外國爲替機關の整備充實が愈々顯著なるに至らんか、單に伊勢灣圏内にのみ止まらず、進んでは地理的關係に於て清水港は勿論、更に躍進せんか、遠く敦賀港の外國貿易に對する爲替取組をも、克く本市に吸収するに至らん。但し此の如き發展あらしむるには相當年月の經過を要し、又不斷的の努力を肝要とすべしと雖も、凡そ商工業者は金融上其便宜なる地に走るは、恰も水の低きに流るゝが如くなるを以て、本市に於ける外國爲替機關が漸次整備充實し、克く各種の便宜を提供するに至らんか、是等遠隔地に於ける外國貿易業者も、地理的或は商品及び對外販路關係に因る積出港との關係に於て、本市へ海外爲替を依頼するに至るは蓋し自明の理なり。之を事實に徴するに、從來名古屋港に於ては羽二重の輸出なかりしも、本年一月以降に於て一舉にして一ヶ月拾萬圓以上の輸出あるに至りたるは、主として若狹方面よりの輸入に係れるを以て、其爲替に至りても亦之を本市に依頼するに至れるが如きより考察するも、叙上の所論は決して架空的ならざるを知るに至らん。乞ふ試に過去數年に於ける是等兩港の外國貿易額を表示し、以て今後に於ける趨勢を見るの資に供せん。

(イ) 敦賀港外國貿易

明治卅一年—大正元年		大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年
輸 出	三、二四、七三	二、九六、四九	四、九七、九六	三、三三、九六	五、二七、九二	四、一〇、二五
輸 入	一、〇三、三三	一、四五、七九	一、三三、九六	一、八〇、〇九	一、六九、六三	三、九二、八〇
合 計	四、二八、〇六	四、四二、二八	六、三二、九二	五、一四、〇五	六、九七、五五	八、〇三、〇五

(ロ) 清水港外國貿易

明治卅一年—大正元年		大正二年	大正三年	大正四年	大正五年	大正六年
輸 出	七、七六、六二	五、八元、四〇	七、九六、四三	九、五五、八五	八、八六、九二	一〇、五〇、〇七
輸 入	二、六四、〇八	二、三三、四三	一、〇五、七四	六、八、七六	九、六、三三	四、一五、八五
合 計	一〇、四〇、七〇	八、二一、八三	九、〇二、一七	一〇、三九、六一	九、九三、二五	一四、六六、〇二

斯の如く外國爲替の發達するに至らんか、本市に於ける金融界は茲に膨大なる擴張をなし、顯著なる發展あるに伴ひ、克く中部日本に於ける斯界を左右するに至らん。金融界の状態にして一旦茲に到達せんか、之が爲め他面中部日本に於ける他港の外國貿易を名古屋港へ誘致するに至ること、蓋し益々旺盛なるに至るべきを以て、互に因果的關係を以て益々本市金融界を膨張せしめずんば止まざるなり。外國爲替機關の改善は、之を金融上より觀るも益々喫緊なる問題と稱すべし。

第五項 産業の革新

外國爲替機關の改善は、上來説示せしが如く取組上の敏活に因る商取引上の圓滑、外國貿易の發展、

及び金融界を膨脹せしむるのみならず、更に進んでは産業上の革新を促進し、依りて以て益々取組額の増大を來すに至らん。

凡そ産業上の施設經營は一面内外販路の廣狹と、他面金融界の大小振否如何とに至大の關係あるや、敢て多言を要せざる所なり。之を以て本市に於ける外國貿易が現今以上に更に活躍を來たし、金融界も亦一層の擴大を見るに至らんか、各種産業に對する活動範圍を擴張し、其活躍力を強大ならしむるに至るべきを以て、産業の状態は今日以上更に一層の發展を來たし、彼の本市工業上の特徴たる家内工業の如きも、漸次工場工業に進展し、大に其生産力を増加するの曉に於ては、對外關係は益々擴大し、對外爲替の如きも亦隨つて急激なる増進を見るに至らん。蓋し本市は輓近製造工業頓に旺盛を告ぐるに至りしと雖も、本市重要製産品にして、原料を本市若くは本市附近に有するものは實に稀有にして、僅に陶磁器等一二製産品に對する原料を有するのみ。而かも陶磁器の原料と雖も全然之を本縣に於て自給する能はざる爲め、隣縣、及び香川縣並に遠く熊本縣より供給を仰ぎつゝあるの状態にして、全然本縣に於て原料を供給し得るは、僅に絹織物の原料たる生絲あるのみ。然るに顧みて本市若くは本縣の絹織物業の状態を観るに、尙ほ未だ微々として不振の域を免れざる所以のものは、果して其原因那邊に存するや。豊富なる原料を有しながら、之を利用する製造業未だ振興せず、原料其儘にて而かも他港の當業者の手に委ねて、之を海外に輸出するが如きは、益々發展の機運に向へる本市の現狀上果して克く之が賦過を

許すべきや、吾人は本市識者の猛省一番、大に之を利用するの工業を振興せしむると同時に、又之を直接名古屋港より海外へ輸出せしむるの方策を樹立し、著々之が實現を慫慂して止まざるなり。蓋し絹織物業の振否、及び生絲の直接輸出の兩者は、其の影響する所、實に本市の外國貿易及び産業上のみならず、又進んで金融界に對し至大の關係あるを以て、此の兩者にして著々發展するに至らんか、本市の金融界は益々發展し、唯に對内的のみならず、對外的、即ち對外爲替に於ても亦激増するに至らん。之を以て吾人は萬難を排して拮据黽勉、以て本縣に豊富なる製産を有する生絲を土臺とし、本市をして生絲集散地たらしめんとするの抱負を有するものなり。此くして隣縣岐阜縣及び近縣長野縣の生絲は勿論、更に進んで福井縣に於ける羽二重をも本市に誘致し、之を本市より輸出せしめんとするの念頗る切なるものあり。幸に此の如き發展あるに至らんか、外國爲替の取組は俄然として激増するに至るや蓋し明かなり。試に愛知縣、岐阜縣、及び長野縣に於ける生絲製産額、並に福井縣及び石川縣に於ける輸出向羽二重の製産額を、大正五年の農商務省統計に據りて表示せば左の如し。

	數	價	額
愛知縣	四九八、三七九	三一、三二二、四六二	四六二
岐阜縣	一九二、四四九	一三、五六五、五八〇	五八〇
長野縣	一、三四二、四七〇	九四、五三一、〇二二	〇二二
計	二、〇三三、二九八	一三九、四一九、〇六四	〇六四

輸出向羽二重	福井縣	一、八二二、八四九	三〇、一八七、九四六
石川縣	九二八、六〇六	一二、六四〇、四五五	
計	二、七五一、四五五	四二、八二八、四〇一	
總計		一八二、二四七、四六五	

而して右の内生絲の海外輸出額如何と云ふに、大正五年に於ける全國生絲の海外輸出額は全國製産額に對し七割七分なるを以て、叙上三縣に於ける生絲の海外輸出額は、概算壹億七百萬圓内外の巨額なるを知るべきなり。

惟ふに從來豊富なる生絲の製産を有しながら、何等之に加工せず、而かも一に間接貿易のみに依り原料其儘にて輸出せし所以のものは、其原因素より少なからざるべきも、要するに(一)當地方は古來より綿織物發達せしが爲に、多く意を絹織物に致さざりしこと、(二)生絲若くは絹織物の如き巨額なる資本を要する商工業經營に適せる大經營の當業者に乏しかりしこと、換言すれば從來商工業經營の規模の小なりしこと、(三)金融機關、就中外國爲替機關の不整備なりしこと、等を以て其主要原因とす。然るに現今に於ける本市の商工業は、現戰亂の好影響を蒙り、俄然として進歩發展し、又昔日の比にあらざるを以て、今後不斷的銳意努力する所あらんか、吾人の抱負は早晚實現すべきを信す。然るに世上或は往年神戸に於ける計畫の失敗を引用し、吾人の抱負を以て一の机上論に過ぎずと稱する者なきにあらずと雖も、之れ徒に楯の一面を觀て他面を顧みざる所論たるを免れず。何となれば、神戸に於ける往年の失敗は製産

地たらざる、換言せば背景を缺如せるに主因せるも、本市は全國中にも生絲の主産地たる中部日本に地を占め、長野縣、本縣郡部及び岐阜縣を背後に有し、更に進んでは福井縣の羽二重主産地を控ふるを以て、彼と同一視する能はざるのみならず、内外經濟界の情勢は逐年推移變遷し、之を往年に比すれば其差著しきを以て、十數年前の例を以て現時を論すべくもあらず。加之凡百の計畫は先づ机上の立案に成り、之を實際に施設實現せしむるに於てをや。試に借問せん、少なくとも十數年前に於ける我國の狀態の下に於て、飛行機を空中に飛翔せしめんと企圖するの徒あらば、世人は果して何んと云はん。彼等は擧て之を單に机上の計畫に過ぎずとなし、誰か能く今日の發達あるを豫期したるものあらんや。本市をして生絲市場たらしむるの抱負は、豈に必ずしも机上論と稱すべきにあらざるを知らん。苟くも本市に於て金融の業に従ひ、生産工業の經營に従へる者は、須らく這般の大勢を洞察する所なかるべからず。

第七章 結論

吾人は本市に於ける外國爲替の過去、及び現在に於ける狀況を調査し、以て將來に於ける趨勢を洞察せんが爲め、上來章を改むること六回に及び、斯くして本市に於ける外國貿易の過去及び現在に於ける狀況より、將來に於ける發展を豫想し、兩者の關係より進んで金融界の革新、及び其發展あるべきを明にしたるを以て、之に依りて本市に於ける今後の外國爲替が顯著なる増進あるべきの證左を明にしたる

と同時に、此の如く將に激増せんとしつゝある外國爲替の取組機關を現狀に放任するが如きは、實に本市外國貿易上探る能はざるのみならず、又金融及び産業上之を不問に附する能はざる重大問題たるを知らん。彼の獨逸が戰前僅々約半世紀の間に於て産業上急激なる發展を遂げ、世界の商業場裡に覇を稱へし所以のものは、其原因素より一にして止らずと雖も、一般商工業と金融界と密接なる關係を結び、金融業者は盛に内、各種の産業を誘掖指導し、外、世界商戦上に於て必要なる資金を供給して、大に商工業者の後援たるの實を擧げ、斷えず這間の研究を怠らざるに基因せり。今や本邦及び本市の外國貿易は、現戦亂の好影響を蒙りて急激なる發展を來たし、商勢實に殷盛を極めつゝありと雖も、斯の如きは戦時經濟上より來れる不自然なる現象たるを以て、戦後に於ても現狀を維持せんが爲には、必ずや今よりして廻らずに相當の方策を以てし、行ふに適切な施設計畫を試みざるべからず。宜なる哉、現下戦後經營の聲は益々朝野の間に高唱されつゝあるにあらずや。此の秋に當り本市に於ける外國貿易の發展上、其と唇齒輔車の關係ある外國爲替機關の改善を實現し、之を整備し、之を充實ならしむるは、實に喫緊事にして、最も時機を得たるものと稱すべし。業に本市に於て銀行經營に従ふ者須らく叙上の實態と、其趨勢とに鑑み、以て從來に於けるが如き外國爲替取組上の不便不利を一掃し、克く其改善を試みんと欲せば、須らく速に直接外國爲替業務の開始、或は其機關を整へざるべからず。之れ豈に唯に外國貿易業者のみと云はんや、又以て彼等金融業者の利益とする所ならざるべからず。然りと雖も外國爲替の業務

たる、素と之れ高遠なる學理を要し、特殊なる技能、及び微妙なる熟練を要せざるべからざるのみならず、前章に於て推想したるが如く、果して能く今後急激なる發展の下に、爲替金額の膨脹を來たすとせば、本市銀行業者にして、進んで直接取組に進展せんと欲する場合は、須らく先づ慎重なる態度の下に其陣容を整へ、以て之に對應するの準備と覺悟は勿論、萬遺漏なき施設計畫を肝要とせざるべからず。彼の過去に於ける状態より打算して、直接爲替業務の開始を躊躇するが如きは、吾人の斷じて與みせざる所にして、一度思ひを本市の外國貿易上は勿論、其金融上より進んで一般内外經濟界の今後に於ける趨勢に致さんか、今は須らく積極の方策に出で、能く將來發生し得べき内外經濟界の變動に順應し、以て商工業者の安寧利福を企圖すべきは、正に銀行業者の責務なりと云はざるべからず。敢て當業者の猛省を促す所以なり。

—(大正七年五月六月調査)—

大正七年七月十八日印刷
大正七年七月二十日發行

發行兼
編輯者

犬

伏

節

輔

名古屋市 中區榮町七丁目九番地

印刷者

山

田

良

弼

名古屋市 西區伊倉町三丁目二番地

印刷所

一

誠

社

名古屋市 西區伊倉町三丁目二番地

發行所 名古屋商業會議所

326
355

終